



誰もが住んでみたい村に
農業農村整備

令和7年度

国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
佐賀中部地区排水路他機能保全検討業務

積算書

(当初)

九州農政局
北部九州土地改良調査管理事務所

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	佐賀中部地区排水路他機能保全検討業務

業務別業務名: 調査業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
*** S単-1号 ***						
S02115	主任技師		人		1,000	歩A 当たり算出
	主任技師			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04003 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04003	主任技師	1.000	人	66,900	66,900	
	合計				66,900	算出数量 1,000人
	単価				66,900	
*** S単-2号 ***						
S02115	技師(A)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師(A)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04004 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04004	技師(A)	1.000	人	59,600	59,600	
	合計				59,600	算出数量 1,000人
	単価				59,600	
*** S単-3号 ***						
S02115	技師(B)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師(B)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04005 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04005	技師(B)	1.000	人	48,500	48,500	
	合計				48,500	算出数量 1,000人
	単価				48,500	
*** S単-4号 ***						
S02115	技師(C)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師(C)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04006 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04006	技師(C)	1.000	人	40,300	40,300	
	合計				40,300	算出数量 1,000人
	単価				40,300	
*** S単-5号 ***						
S02115	技術員		人		1,000	歩A 当たり算出
	技術員			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04007 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04007	技術員	1.000	人	36,100	36,100	
	合計				36,100	算出数量 1,000人

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業				
業務名	佐賀中部地区排水路他機能保全検討業務				

業務別業務名: 調査業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	単 価				36,100	
	*** S単- 6号 ***					
S65001	現地踏査 (開水路)		km		1,000 日	歩A 当たり算出
	現地踏査 線の構造物			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)対象構造物	線の構造物		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04004	技師 (A) 外業	1.000	人	59,600	59,600	
R04005	技師 (B) 外業	1.000	人	48,500	48,500	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費	0.014		144,200	2,019	
Y00004	材料費	0.008		144,200	1,154	
	合 計				147,373	算出数量 6,000 [各単位]
	単 価		[各単位]		24,562	
Y00001	単位					
	*** S単- 7号 ***					
S65002	近接目視		式		1,000 式	歩A 当たり算出
	近接目視 線の構造物,356㎡			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)対象構造物 2)作業対象面積	線の構造物 356㎡		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04005	技師 (B) 外業	1.000	人	48,500	48,500	
R04006	技師 (C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費 3.0%	0.030		124,900	3,747	
Y00004	材料費 2.0%	0.020		124,900	2,498	
	合 計				131,145	算出数量 1,000 式
	単 価		式		119,342	
	*** S単- 8号 ***					
S65003	コンクリート強度推定調査		測点		1,000 日	歩A 当たり算出
	コンクリート強度推定調査			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)強度推定調査	計上する		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04006	技師 (C) 外業	1.000	人	40,300	40,300	
R04007	技術員 外業	1.000	人	36,100	36,100	
Y00004	機械経費 10.0%	0.100		76,400	7,640	
	合 計				84,040	算出数量 20,000 測点
	単 価		測点		4,202	
	*** S単- 9号 ***					
S65009	中性化深さ試験 (ドリル法)		箇所		1,000 日	歩A 当たり算出
	中性化深さ試験 (ドリル法)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業				
業務名	佐賀中部地区排水路他機能保全検討業務				

業務別業務名: 設計業務

コード	名称(規格)	数量	単位	単価	金額	備考
	*** S単-1号 ***					
S02115	主任技師					
	主任技師		人	66,900		歩A・単A
	*** S単-2号 ***					
S02115	技師(A)					
	技師(A)		人	59,600		歩A・単A
	*** S単-3号 ***					
S02115	技師(B)					
	技師(B)		人	48,500		歩A・単A
	*** S単-4号 ***					
S63010	打合せ(設計業務基準日額)					
	打合せ(設計業務基準日額)					
	一般工種, 着手前・最終, 1.00人, 1.00人, 0.00人, 0.00人, 0.5日, 0.2日		回	88,550		歩A・単A
	*** S単-5号 ***					
S63010	打合せ(設計業務基準日額)					
	打合せ(設計業務基準日額)					
	一般工種, 中間, 0.00人, 1.00人, 1.00人, 0.00人, 0.5日, 0.2日		回	75,670		歩A・単A
	*** S単-6号 ***					
S63011	打合せ(設計旅費・交通費)					
	打合せ(設計旅費・交通費)					
	一般工種・解析等調査業務, 着手前・最終, 通勤により打合せ, 一般交通機関, 0日,		回	3,600		歩A・単A
	*** S単-7号 ***					
S63011	打合せ(設計旅費・交通費)					
	打合せ(設計旅費・交通費)					
	一般工種・解析等調査業務, 中間, 通勤により打合せ, 一般交通機関, 0日,		回	3,600		歩A・単A
	*** S単-8号 ***					
S63023	電子納品版業務報告書作成					
	電子納品版業務報告書作成					
	1, A-4, 800, 10cm, 0		式	10,989		歩A・単A
	*** S単-9号 ***					
S65501	機能診断 線の構造物(開水路)					
	機能診断 線の構造物					
	4.400km, 開水路, 暗渠		式	2,514,390		歩A・単A
	*** S単-10号 ***					
S65901	機能診断(水路ゲート)					
	機能診断(水路ゲート)					
	13門, 計上する, 計上する, 計上する, 計上する, 計上する, 計上する, 計上する, 計上する		式	1,975,060		歩A・単A
	*** T単-1号 ***					
T00003	旅費交通費(基地～現地)					
			回	3,544		歩A・単A

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	佐賀中部地区排水路他機能保全検討業務

業務別業務名:設計業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
*** S単-1号 ***						
S02115	主任技師		人		1,000	歩A 当たり算出
	主任技師			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04003 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04003	主任技師	1.000	人	66,900	66,900	
	合計				66,900	算出数量 1,000人
	単価				66,900	
*** S単-2号 ***						
S02115	技師(A)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師(A)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04004 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04004	技師(A)	1.000	人	59,600	59,600	
	合計				59,600	算出数量 1,000人
	単価				59,600	
*** S単-3号 ***						
S02115	技師(B)		人		1,000	歩A 当たり算出
	技師(B)			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)労務コード 2)労務単価算定区分	R04005 基(B)		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
R04005	技師(B)	1.000	人	48,500	48,500	
	合計				48,500	算出数量 1,000人
	単価				48,500	
*** S単-4号 ***						
S63010	打合せ(設計業務基準日額)		回		1,000	歩A 当たり算出
	打合せ(設計業務基準日額) 一般工種,着手前・最終,1.00人,1.00人,0.00人,0.00人,0.5日,0.2日			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1)設計工種 2)打合せ	一般工種 着手前・最終		豪雪補正:なし 基本給時間:8.0 深夜時間:0.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	3)設計用主任技師人数 4)設計用技師(A)人数 5)設計用技師(B)人数 6)設計用技師(C)人数	1.00人 1.00人 0.00人 0.00人				
	7)打合せ日数 8)往復移動日数	0.500日 0.200日				
R04003	主任技師	0.700	人	66,900	46,830	
R04004	技師(A)	0.700	人	59,600	41,720	
	合計				88,550	算出数量 1,000回
	単価		回		88,550	
*** S単-5号 ***						
S63010	打合せ(設計業務基準日額)		回		1,000	歩A 当たり算出
	打合せ(設計業務基準日額) 一般工種,中間,0.00人,1.00人,1.00人,0.00人,0.5日,0.2日			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	佐賀中部地区排水路他機能保全検討業務

業務別業務名: 設計業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
	1)設計工種	一般工種		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2)打合せ	中間		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3)設計用主任技師人数	0.00人		深夜時間:0.0		
	4)設計用技師(A)人数	1.00人				
	5)設計用技師(B)人数	1.00人				
	6)設計用技師(C)人数	0.00人				
	7)打合せ日数	0.500日				
	8)往復移動日数	0.200日				
R04004	技師 (A)	0.700	人	59,600	41,720	
R04005	技師 (B)	0.700	人	48,500	33,950	
	合計				75,670	算出数量 1.000 回
	単 価		回		75,670	
	*** S単- 6号 ***					
S63011	打合せ (設計旅費・交通費)		回		1.000 回	歩A 当たり算出
	打合せ (設計旅費・交通費) 一般工種・解析等調査業務,着手前・最終,通勤により打合せ,一般交通機関,0日,			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
				豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)設計工種	一般工種・解析等調査業務		深夜時間:0.0		
	2)打合せ内容	着手前・最終				
	3)主任技師配置人員	1人				
	4)技師A配置人員	1人				
	5)技師B配置人員	0人				
	6)技師C配置人員	0人				
	7)打合せ日数	0.50日				
	8)往復移動日数	0.20日				
	9)宿泊区分	通勤により打合せ				
	10)交通機関区分	一般交通機関				
	11)高速道路往復料金 (税別)	0円				
	12)鉄道往復1人当料金 (税別)	1,800円				
	13)バス往復1人当料金 (税別)	0円				
	14)船舶往復1人当料金 (税別)	0円				
	15)航空往復1人当料金 (税別)	0円				
	16)ライトバン使用日数	0日				
	18)宿泊料金1人当料金 (税別)	0円				
	19)宿泊手当1人当料金 (税別)	0円				
P54306	鉄道料金 消費税抜き	2.000	人	1,800	3,600	
	合計				3,600	算出数量 1.000 回
	単 価		回		3,600	
	*** S単- 7号 ***					
S63011	打合せ (設計旅費・交通費)		回		1.000 回	歩A 当たり算出
	打合せ (設計旅費・交通費) 一般工種・解析等調査業務,中間,通勤により打合せ,一般交通機関,0日,			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
				豪雪補正:なし 基本給時間:8.0	亜熱帯補正:なし 超勤時間:0.0	
	1)設計工種	一般工種・解析等調査業務		深夜時間:0.0		
	2)打合せ内容	中間				
	3)主任技師配置人員	0人				
	4)技師A配置人員	1人				
	5)技師B配置人員	1人				
	6)技師C配置人員	0人				
	7)打合せ日数	0.50日				
	8)往復移動日数	0.20日				
	9)宿泊区分	通勤により打合せ				
	10)交通機関区分	一般交通機関				
	11)高速道路往復料金 (税別)	0円				
	12)鉄道往復1人当料金 (税別)	1,800円				
	13)バス往復1人当料金 (税別)	0円				
	14)船舶往復1人当料金 (税別)	0円				
	15)航空往復1人当料金 (税別)	0円				
	16)ライトバン使用日数	0日				
	18)宿泊料金1人当料金 (税別)	0円				
	19)宿泊手当1人当料金 (税別)	0円				
P54306	鉄道料金 消費税抜き	2.000	人	1,800	3,600	
	合計				3,600	算出数量 1.000 回
	単 価		回		3,600	

事業名	国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
業務名	佐賀中部地区排水路他機能保全検討業務

業務別業務名:設計業務

コード	名称	数量	単位	単価	金額	備考
*** S単- 8号 ***						
S63023	電子納品版業務報告書作成		式		1,000	歩A 当たり算出
	電子納品版業務報告書作成 1. A-4, 800, 10cm, 0			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1) 報告書部数(部)	1,000		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2) 規格区分	A-4		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3) 枚数区分(枚)	800		深夜時間:0.0		
	4) 厚さ区分	10cm				
	5) CD-R枚数(枚)	0.000				
P43496	報告書焼付代(コピー)		部	10,200	10,200	
	A-4以下 800枚	1,000				
P43544	簡易加除式ファイル		冊	789	789	
	A 4縦型幅10cm(チューブ・パイプファイル)	1,000				
P43602	CD-R		枚	47	0	
	CD-R(記録面色素フタロシアニン)700MB	0.000				
	合 計				10,989	算出数量 1,000 式
	単 価		式		10,989	
*** S単- 9号 ***						
S65501	機能診断 線の構造物(開水路)		式		1,000	歩A 当たり算出
	機能診断 線の構造物 4.400km,開水路、暗渠			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
	1) 設計対象延長	4.400km		豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
	2) 対象工種	開水路、暗渠		基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	
	3) 1. 業務準備	計上する		深夜時間:0.0		
	4) 2-1. 事前調査資料調査	計上する				
	5) 2-2. 事前調査問診調査	計上する				
	6) 3. 施設機能の検討	計上する				
	8) 5. 性能低下要因の推定	計上する				
	9) 6. 水利・水理機能検討	計上しない				
	10) 9. 詳細調査計画立案	計上しない				
	11) 10. 健全度評価	計上する				
	12) 11. 性能低下予測	計上する				
	13) 12. 管理水準の設定	計上する				
	14) 13. 機能保全対策の検討	計上する				
	15) 14. 機能保全コストの算定	計上する				
	16) 15. 機能保全計画の策定	計上する				
	17) 16. 農業水利ストック情報データ入力・登録	計上する				
	18) 17. 点検取りまとめ	計上する				
	19) 1個別補正業務準備	1.00				
	20) 2-1個別補正資料調査	1.00				
	21) 2-2個別補正問診調査	1.00				
	22) 3個別補正施設機能の検討	1.00				
	23) 4個別補正施設の影響度評価	1.00				
	24) 5個別補正性能低下要因の推定	1.00				
	25) 6個別補正水利・水理機能検討	1.00				
	26) 9個別補正詳細調査計画立案	1.00				
	27) 10個別補正健全度評価	1.00				
	28) 11個別補正性能低下予測	1.00				
	29) 12個別補正管理水準の設定	1.00				
	30) 13個別補正機能保全対策の検討	1.00				
	31) 14個別補正機能保全コストの算定	1.00				
	32) 15個別補正機能保全計画の策定	1.00				
	33) 16個別補正ストック情報データ入力・登録	1.00				
	34) 17個別補正点検取りまとめ	1.00				
R04003	主任技師 内業	7.520	人	66,900	503,088	
R04004	技師(A) 内業	15.830	人	59,600	943,468	
R04005	技師(B) 内業	14.140	人	48,500	685,790	
R04006	技師(C) 内業	9.480	人	40,300	382,044	
	合 計				2,514,390	算出数量 1,000 式
	単 価		式		2,514,390	
*** S単- 10号 ***						
S65901	機能診断(水路ゲート)		式		1,000	歩A 当たり算出
	機能診断(水路ゲート) 13門,計上する,計上する,計上する,計上する,計上する, 計上する,計上する,計上する			時間的制約:なし 夜間制約作業時間:0.0	制約作業時間:0.0 冬期補正:なし	
				豪雪補正:なし	亜熱帯補正:なし	
				基本給時間:8.0	超勤時間:0.0	

令和7年度国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業
佐賀中部地区排水路他機能保全検討業務

特 別 仕 様 書

九州農政局 北部九州土地改良調査管理事務所

第1章 総則

(適用範囲)

第1-1条

令和7年度国営造成水利施設ストックマネジメント推進事業佐賀中部地区排水路他機能保全検討業務の施行にあたっては、農林水産省農村振興局制定「設計業務共通仕様書」(以下「共通仕様書」という。)によるほか、同仕様書に対する特記及び追加事項は、この特別仕様書によるものとする。

(目的)

第1-2条

本業務は、国営佐賀中部土地改良事業で造成された、牛津2号排水路、三日月2号排水路、川上排水路、久保田1号排水路、久保田3号排水路、城西排水路における開水路、暗渠及び水門設備について、機能診断及び機能保全計画の作成を行うものである。

(場所)

第1-3条

本業務において対象とする施設の場所は、佐賀県佐賀市及び小城市地内で、別添位置図に示すとおりである。

(土地の立入り等)

第1-4条

作業実施のための土地の立入り等は、共通仕様書第1-16条によるが、発注者の許可なく土地の踏み荒らし、立木伐採等行った場合に対する補償は、受注者の責任において処理するものとする。

(履行確実性評価の達成状況の確認)

第1-5条

本業務の受注にあたり、調査基準価格を下回る金額で受注した場合には、履行確実性評価の審査で提出した追加資料について、業務実施状況を踏まえた実施額に修正し、これを裏付ける資料とともに、業務完了検査時に提出するものとする。その上で、提出された資料をもとに以下の内容について履行確実性評価の達成状況を確認し、その結果を業務成績に反映させるものとする。

なお、業務完了検査時まで提出されない場合には以降の提出を受け付けず、業務成績評価に厳格に反映させるものとする。

- (1) 審査項目 a) ～ c) において、審査時に比較して正当な理由なく必要額を下回った場合
- (2) 審査項目 d) において、審査時に比較して正当な理由なく再委託額が下回った場合
- (3) その他、業務計画書等に示された、実施体制、実施手順、工程計画が正当な理由なく異なる等、業務実施体制に関する問題が生じた場合
- (4) 業務成果品のミス、不備等

(一般事項)

第1-6条

業務請負契約書及び共通仕様書に示す以外の一般事項は、次のとおりである。

- (1) 受注者は、作業実施の順序、方法等について監督職員と密接な連絡を取り、作業の円滑な進捗を図るものとする。
- (2) 作業に従事する技術者は、対象業務に十分な知識と経験を有するものとする。
- (3) 受注者は、業務内容を把握し業務期間中に監督職員が資料の提出を求めた場合は速やかにこれに応じるものとする。

(管理技術者)

第1-7条

(1) 管理技術者は、共通仕様書第1-6条第3項によるものとし、農業土木技術管理士以外の資格に該当する技術部門・選択科目は次のとおりである。

資格	技術部門	選択科目
技術士	総合技術監理	建設-鋼構造及びコンクリート 農業-農業土木 農業-農業農村工学
	建設	鋼構造及びコンクリート
	農業	農業土木 農業農村工学
博士	当該業務に関連する学術部門	
シビルコンサルティングマネージャー	鋼構造及びコンクリート	
	農業土木	

(2) 予算決算及び会計令第85条の基準に基づく価格(以下、「調査基準価格」という。)を下回る価格で契約した場合においては、管理技術者は屋外で行う測量等の実施に際して現場に常駐するとともに、作業日毎に業務の内容を監督職員に報告しなければならない。なお、管理技術者が現場での常駐場所を定めた場合、あるいは変更した場合は監督職員に報告することとする。

(担当技術者)

第1-8条

担当技術者は、共通仕様書第1-8条によるものとする。

(配置技術者の確認)

第1-9条

共通仕様書第1-11条における業務組織計画の作成及び共通仕様書第1-12条に基づく技術者情報の登録にあたっては、次によるものとする。

- (1) 受注者は、業務計画書の業務組織計画に配置技術者の所属・役職及び相当する分担業務を明確に記載するものとする。なお、変更業務計画書において、業務組織計画を変更する際も同様とする。
- (2) 農業農村整備事業測量調査設計業務実績情報サービスへの技術者情報の登録は、業務計画書の業務組織計画において位置付けられた技術者を登録対象とする。

(保険加入)

第1-10条

受注者は、共通仕様書第1-37条に示されている保険に加入している旨を業務計画書に明示しなければならない。また、監督職員からの請求があった場合は、保険加入を証明する書類を提示しなければならない。

第2章 作業条件

(適用する図書)

第2-1条

本業務の基本的事項に関しては、次の図書を優先して適用するものとする。
 なお、他の図書を適用する場合は、監督職員の承諾を受けるものとする。

番号	名 称	発 行 所	制定(改訂)年月
1	農業水利施設の機能保全の手引き	農林水産省農村振興局 整備部設計課	令和 5 年 4 月
2	農業水利施設の機能保全の手引き 「開水路」		平成 28 年 8 月
3	農業水利施設の機能保全の手引き 「頭首工（ゲート設備）」		平成 22 年 6 月
4	農業水利施設の長寿命化のための 手引き		平成 27 年 11 月

(作業条件)

第 2-2 条

本業務の実施にあたっては、以下の事項に留意して作業を進めるものとする。

- (1) 作業の実施にあたっては、事前に作業方法及び具体的な工程計画を立案し、監督職員と十分打合せを行い手戻りのないよう留意しなければならない。
- (2) 本業務において生じた第三者との紛争で受注者の責に帰する事項は、受注者の責任において処理しなければならない。
- (3) 現地調査の結果、新たに仮設等が必要となった場合は監督職員と協議する。

(対象施設)

第 2-3 条

本業務で実施する機能診断調査の対象施設は次のとおりである。

なお、詳細については別紙1「調査対象施設一覧表」による。

- (1) 牛津 2 号排水路
開水路 L=1.79km、暗渠 L=0.11km、水門設備 N=6 門
- (2) 三日月 2 号排水路
開水路 L=0.58km、暗渠 L=0.03km
- (3) 川上排水路
開水路 L=0.65km
- (4) 久保田 1 号排水路
開水路 L=0.57km、暗渠 L=0.04km、水門設備 N=4 門
- (5) 久保田 3 号排水路
開水路 L=0.42km、暗渠 L=0.02km、水門設備 N=1 門
- (6) 城西排水路
開水路 L=0.19km、水門設備 N=2 門

(参考図書)

第 2-4 条

本業務で参考にする図書は、共通仕様書第 2-1 条によるほか次表によるものとする。

番号	図書・資料名	発行	制定(改訂)年月
1	コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針-2022-	(社) 日本コンクリート工学会	令和4年6月
2	コンクリート診断技術 '24	〃	令和6年3月
3	コンクリート標準示方書(設計編)	(社) 土木学会	令和5年3月
4	コンクリート標準示方書(施工編)	〃	令和5年9月
5	コンクリート標準示方書(維持管理編)	〃	令和5年3月
6	農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル【開水路編】	農林水産省農村振興局整備部設計課	令和5年3月

(貸与資料等)

第2-5条

貸与資料は、次のとおりである。

番号	資料名	数量
1	国営佐賀中部土地改良事業 施設管理図	1式
2	令和元年度 国営施設応急対策事業 佐賀中部地区長寿命化計画作成業務報告書	1式
3	令和2年度 国営施設応急対策事業 佐賀中部地区長寿命化計画作成業務 報告書	1式

また、上記以外に必要な資料がある場合は、監督職員と協議するものとする。

(参考図書及び貸与資料の取扱い)

第2-6条

第2-4条、第2-5条に示す参考図書及び貸与資料の取扱いは次のとおりとする。

- (1) 参考図書及び貸与資料の記載事項に相互に矛盾がある場合、又は解釈に疑義が生じた場合は、監督職員と協議するものとする。
- (2) 参考図書は、設計作業時点の最新版を用い設計作業中に改訂された場合には、監督職員と協議するものとする。
- (3) 貸与資料は、原則として初回打合せ時に一括貸与するものとし、監督職員の請求があった場合のほか完了検査時に一括返納しなければならない。

(関連業務)

第2-7条

本業務と関連する他業務は次のとおりであり、監督職員及び関連業務の管理技術者と連絡を密にして、互いに調整の図られた業務成果としなければならない。

番号	業務名	業務実施期間
1	令和7年度地区調査 佐賀中部地区事業計画書(案)他とりまとめ業務	令和7年4月 ～令和8年3月

第3章 作業内容

(作業項目及び数量)

第3-1条

本業務における作業項目及び数量は、次のとおりである。

なお、詳細は別紙2「現地調査作業項目内訳表」及び別紙3「機能診断作業項目内訳表」のとおりである。

作業項目	数量	備考
1. 現地調査	1式	
2. 機能診断	1式	
3. 機能保全計画の作成	1式	

(現地作業内容)

第3-2条

(1) 現地踏査

事前調査で得られた情報を参考に、遠隔目視により変状の有無や変状箇所の特定を行い、踏査結果を整理する。踏査結果を踏まえ、現地調査（定点調査）を行う調査地点、調査項目等を選定、検討する。

(2) 現地調査（定点調査）

現地調査（定点調査）選定結果に基づき、近接目視と定量計測を行う。

(3) これらの調査結果は、農業水利ストック情報データベースの登録情報データ外部入出力機能（施設機械の一次診断結果にあたっては一次診断情報入力用 Excel ファイル）を利用して記録するものとし、記録した電子データは成果物に含むものとする。

(作業の留意点)

第3-3条

業務の実施にあたって、特に留意する点は次のとおりとする。

(1) 試験試料採取及び破壊検査は構造物への影響が最小限となるよう配慮するとともに、監督職員と詳細な位置について打合せのうえ決定するものとする。

なお、採取後は、既存施設の機能を損なわないよう無収縮モルタル等により復旧を行うものとする。

(2) 現地調査及び室内試験において著しく機能が低下している施設を発見した場合は、遅滞なく監督職員へ報告するものとする。

(3) 現地踏査等施設の状況確認においては、できる限り施設管理者の同行により意見・助言を受けて実施するものとする。

(4) 対策内容の検討にあたっては、当該施設が必要な機能及び安全で所要の耐久性を有するとともに維持管理、施工性及び経済性について考慮しなければならない。

(5) 電算機を使用する場合は、計算手法及びアウトプット等の様式について事前に監督職員の承諾を得るものとする。

(6) 第2-4条、第2-5条及び共通仕様書に示す参考図書、貸与資料や受注者が有する資料等を参考にした場合は、その出典を明示するものとする。

(7) 機能保全対策シナリオの検討にあたっては、最新の新素材、新工法などの技術情報の収集に努めた上で、比較検討を行う。新技術や新工法等の選定にあたっては、農業農村整備民間技術情報データベース（NNTD）及び新技術情報システム（NETIS）等を積極的に活用しなければならない。

・農業農村整備民間技術情報データベース（NNTD）については、

https://www.nn-techinfo.jp/mdb_web/MdbTop.do を参照。

・新技術情報システム（NETIS）については、

<https://www.netis.mlit.go.jp/NetisRev/NewIndex.asp> を参照。

(8) 対象施設、関連施設及び設備が機能診断を完了している場合は、同成果の内容を確認するとともに十分に活用し効率的な作業を行う。

(9) 対策内容の検討にあたっては、事業への適用性や施設管理者の管理体制等を総合的に検討する。

(10) 数量計算にあたっては、「工事工種の体系化」に基づき作成するものとする。なお、「工事工種の体系化」に該当しない工種や用語については、監督職員と協議するものとする。

・「工事工種の体系化」は、https://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/kouzi_kousyu/ を参照。

(11) 農業水利ストック情報データの作成は、機能診断情報記入用 Excel ファイルによる入力のほか、登録情報データ外部入出力機能等を適宜使用することを基本とするが、作業方法、内容等について監督職員と十分協議を行った上作業を行うものとする。なお、作成した電子データは成果物に含むものとする。

(業務写真における黒板情報の電子化)

第3-4条

黒板情報の電子化は、被写体画像の撮影と同時に業務写真における黒板の記載情報の電子的記入を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化を図るものである。

受注者は、業務契約後に監督職員の承諾を得たうえで黒板情報の電子化を行うことができる。黒板情報の電子化を行う場合、受注者は、以下の(1)から(4)によりこれを実施するものとする。

(1) 使用する機器・ソフトウェア

受注者は、黒板情報の電子化に必要な機器・ソフトウェア等（以下、「機器等」という。）は、電子的記入ができるもので、かつ「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」(URL「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」)に記載する基準を用いた信性憑確認機能（改ざん検知機能）を有するものを使用するものとする。

(2) 機器等の導入

ア 黒板情報の電子化に必要な機器等は、受注者が準備するものとする。

イ 受注者は、黒板情報の電子化に必要な機器等を選定し、監督職員の承諾を得なければならない。

(3) 黒板情報の電子的記入に関する取扱い

ア 受注者は、1の機器等を用いて業務写真を撮影する場合は、被写体と黒板情報を電子画像として同時に記録してもよいこととする。

イ 本業務の業務写真の取扱いは、「電子化写真データの作成要領（案）」によるものとする。

なお、上記(1)に示す黒板情報の電子的記入については、「電子化写真データの作成要領（案）6 写真編集等」に示す「写真編集」には該当しないものとする。

ウ 黒板情報の電子化を適用する場合は、従来型の黒板を写し込んだ写真を撮影する必要はない。

(4) 写真の納品

受注者は、(3)に示す黒板情報の電子化を行った写真を、業務完了時に発注者へ納品するものとする。

なお、受注者は納品時に URL (https://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index_digital.html) のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアを用いて、黒板情報を電子化した写真の信憑性確認を行い、その結果を監督職員へ提出するものとする。

(5) 費用

機器等の導入に要する費用は、従来の黒板に代わるものであり、直接経費に含まれる。

第4章 打合せ

(打合せ)

第4-1条

共通仕様書第1-10条による打合せについては、主として次の段階で行うものとする。

また、初回及び最終回の打合せには、管理技術者が出席するものとする。

- 初 回 作業着手の段階
- 第2回 中間打合せ（現地調査（定点調査）選定段階）
- 第3回 中間打合せ（機能診断評価段階）
- 第4回 中間打合せ（機能保全計画の策定段階）
- 最終回 報告書原稿作成段階

なお、業務を適正かつ円滑に実施するために、受注者の業務担当は、業務打合せ記録簿を作成し、上記の打合せの都度内容について、監督職員と相互に確認するものとする。

打合せ方法については、対面方式から Web 方式に変更する場合がある。

ただし、調査基準価格を下回る価格で契約した場合には、上記に定める打合せを含め、受注者の責により管理技術者の立ち会いの上で打合せ等を行うこととし、設計変更の対象とはしない。

その際、管理技術者は、共通仕様書第1-11条に定める業務計画書に基づく業務工程等の管理状況を報告しなければならない。

第5章 成果物

(成果物)

第5-1条

成果物を共通仕様書第1-17条に基づき作成し、次のものを提出しなければならない。

- 1 成果物の電子媒体（CD-R若しくはDVD-R）正副2部
- 2 成果物の出力（電子媒体の出力、市販のファイル綴じで可）1部

(成果物の提出先)

第5-2条

成果物の提出先は、次のとおりとする。

福岡県久留米市荒木町白口 891-20
九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所

第6章 契約変更

(契約変更)

第6-1条

業務請負契約書第17条から第20条に規定する発注者と受注者による協議事項は、次のとおりとする。

- (1) 第2-2条に示す「作業条件」に変更が生じた場合。
- (2) 第2-3条に示す「対象施設」に変更が生じた場合。
- (3) 第3-1条に示す「作業項目及び数量」に変更が生じた場合。
- (4) 第4-1条に示す「打合せ」に変更が生じた場合。
- (5) 第5-1条に示す「成果物」に変更が生じた場合。
- (6) 履行期間の変更が生じた場合。

(7) 関係機関等対外的協議等により業務計画等に変更が生じた場合。

(8) その他

第7章 定めなき事項

(定めなき事項)

第7-1条

この特別仕様書に定めなき事項又は本業務の実施にあたり疑義が生じた場合は、必要に応じて監督職員と協議するものとする。

【別紙1】調査対象施設一覧表

施設名称	施設名	施設概要
牛津2号排水路	開水路	①鋼矢板水路 B2.50m~4.68m×H0.65m~3.87m L=0.90km ②L型二次製品水路 B3.00m・3.50m×H1.70m~3.00m L=0.36km ③コンクリート擁壁水路 B1.00m~3.00m×H0.60m~3.00m L=0.08km ④ベンチフリューム水路 BF1000 L=0.08km ⑤コンクリートライニング水路 B3.50m~11.50m×H1.40m L=0.06km ⑥ブロック積水路 n=1:0.4~0.6 H=1.50~2.22 L=0.04km ⑦根固工 A=610m ² L=0.03km ⑧床張工 A=332m ² L=0.17km ⑨取付水路工 L=0.07km 【合計L=1.79km】
	暗渠	①橋梁部BOXカルバート B3.00m×H2.00m N=1箇所 L=0.04km ②橋梁部BOXカルバート B3.50m×H2.00m N=3箇所 L=0.01km ③鉄道横断部BOXカルバート B=1.85m・1.15m×H2.15m×2連 N=1箇所 L=0.04km/2連 ④制水門部BOXカルバート B3.00m×H2.10m N=1箇所 L=0.01km ⑤制水門部BOXカルバート B3.50m×H2.10m N=1箇所 L=0.01km 【合計L=0.11km】
	水門設備	①調整ゲート B2.98m×H0.85×1門 ②転倒ゲート B1.15m×H2.15m×1門 ③鋼製ローラーゲート B3.50×H1.95m×1門 B3.50×H1.40m×1門 B3.00×H1.40m×1門 B2.60×H0.90m×1門 【合計N=6門】
三日月2号排水路	開水路	①ブロック積水路 n=1:0.5 H=1.20m~2.68m L=0.03km ②コンクリート柵渠 B3.50m×H1.20m~2.68m L=0.55km 【合計L=0.58km】
	暗渠	①橋梁部BOXカルバート B3.25m×H2.00m N=2箇所 L=0.02km ②制水門部BOXカルバート B3.25m×H2.00m N=1箇所 L=0.01km 【合計L=0.03km】
川上排水路	開水路	①L型二次製品水路 B5.20m×H2.20m L=0.59km ②合流工 ブロック積水路 H=2.60m~3.10m L=0.02km ③合流工 L型二次製品水路 H=5.20m×B2.20m L=0.04km 【合計L=0.65km】

施設名称	施設名	施設概要
久保田1号排水路	開水路	ブロック積水路 n=1:0.3 H=2.61m L=0.57km 【合計L=0.57km】
	暗渠	制水門部BOXカルバート B2.50m×H2.40m N=2連 L=0.04km/2連 【合計L=0.04km】
	水門設備	①鋼製ローラーゲート B2.50m×H2.00m×2門 ②鋼製フラップゲート B2.50m×H2.40m×2門 【合計N=4門】
久保田3号排水路	開水路	①L型二次製品水路 B7.10m×H1.20・1.50m L=0.37km ※張ブロックA=1,082m ² 、張コンクリートA=187m ² 含む ②取付水路 L=0.03km ③合流工 N=5カ所 L=0.02km 【合計L=0.42km】
	暗渠	制水門部BOXカルバート B2.75m×H2.30m N=2連・2箇所 L=0.01km/2連・2箇所 【合計L=0.02km】
	水門設備	鋼製フラップゲート B1.00m×H1.10m×1門 【合計N=1門】
城西排水路	開水路	ブロック積水路 n=1:0.5 H=2.60m~3.10m L=0.19km 【合計L=0.19km】
	水門設備	①鋼製シェル構造ローラーゲート B15.00m×H1.80m×1門 ②自動水位調整ゲート B2.50m×H2.00m×1門 【合計N=2門】

【別紙2】現地調査作業項目内訳表
(開水路)

作業項目	作業内容	数量
1. 現地踏査	事前調査で得られた情報を参考に、遠隔目視により変状の有無や変状箇所の特定制を行い、踏査結果を整理する。踏査結果を踏まえ、現地調査(定点調査)を行う調査地点、調査項目等を選定、検討する。	L=4.4km
2. 近接目視	現地踏査により決定した調査地点において、目視や簡易な器具による計測等の調査を行い、変状等を定量的に把握(ひび割れ・欠損・変形等計測、周辺観察等を含む)するとともに、スケッチを作成する。	A=356m ²
3. コンクリート強度推定調査	リバウンドハンマーによりコンクリート表面を打撃し、反発度を測定することで強度を推定する。 (1測点あたり打撃点3×3=9点 5cm間隔)	N=16測点
4. 中性化深さ調査(ドリル法)	コンクリートドリルにより削孔し、その削粉を用いて中性化深さを測定する。(NDIS 3419)	N=16箇所

(水門設備)

作業項目	作業内容	数量
1. 現地踏査	現地調査の実施手順を決定するために、事前調査で得られた情報をもとに設備を踏査することで、現地調査に伴う仮設の必要性等の現場条件、劣化箇所の位置や劣化の内容、程度など、必要な事項について概略を把握し、現地調査箇所や調査項目、調査方法を決定する。	13門
2. 概略診断調査	事前調査、現地踏査により得られた情報をもとに、目視、触覚、聴覚等人間の五感による判断と付属計器類の指示値、簡易計測器の測定値、日常・定期点検記録や整備・補修記録及び操作記録等から設備の状態、機能を確認する。	13門

【別紙3】機能診断作業項目内訳表
(開水路)

作業項目	作業内容	数量
1. 業務準備	調査対象施設の周辺の地形、現況、諸施設について調査し、業務実施計画書策定のために必要な現地調査を行う。	1式
2. 事前調査 2-1. 資料調査	施設完成時の設計図書及び施設管理記録、地域特性に係る資料等を収集・整理し診断評価の基礎材料とする。	1式
2-2. 問診調査	施設管理者等から日常利用、操作等の不具合・変状個所・事故履歴・補修履歴等について聞き取り調査を行い、施設機能に関する課題、問題点を把握・整理する。	1式
3. 施設機能の検討	資料調査及び問診調査を基に、安全性、水利的な機能及び環境面からの要求機能について整理し、診断の重点を設定するほか、要求機能を満足するための要求性能を設定する。	1式
4. 性能低下要因の推定	事前調査及び現地踏査結果を基に、性能低下の推定を行う。また、環境（水質又は周辺環境）条件による性能低下の可能性があるか推定する。	1式
5. 健全度評価	調査結果に基づき、調査単位毎に施設の健全度の判定を行う。	1式
6. 性能低下予測	性能低下要因推定結果、健全度判定結果等を踏まえ、現況施設の性能判定を行うとともに、性能管理指標を選定し、現地条件に適合する性能低下予測手法により、性能低下予測を行う。	1式
7. 管理水準の設定	性能低下予測の結果を基に、構造の安全率、施設の重要度及び経済性を踏まえ、各施設の管理水準を設定する。	1式
8. 機能保全対策の検討	施設別に現地状況に適合する対策工法を複数選定し、選定された対策工法・実施時期・実施範囲を組み合わせる対策シナリオを複数作成する。	1式
9. 機能保全コストの算定	対策シナリオ毎に機能保全コストを算定し、比較する。（コスト算定のために必要な数量計算、設計図面作成を含む。）	1式
10. 機能保全計画の策定	機能保全コストを最小とすることを基本とした上で、施設重要度を踏まえたリスクや、環境との調和、維持管理の容易さ等、多様な側面も総合的に検討し、機能保全計画を策定する。なお、状況監視等を継続する必要があると認められる施設については、経年変化状況把握などのための施設監視計画を作成する。	1式
11. 農業水利ストック情報データの入力及び登録	上記の作業において作成した資料により農業水利ストック情報データベースの入力及び登録を行う。	1式
12. 点検とりまとめ	各作業項目の成果物の点検、とりまとめ及び報告書の作成を行う。	1式

(水門設備)

作業項目	作業内容	数量
1. 事前調査	設備の状況や問題点等を把握するために、関係機関から事前に既存資料や聞き取り調査等を行う。これにより、現地で機能診断項目を決定し、健全度評価や劣化対策等に必要となる情報を収集・整理する。 なお、資料収集に際しては農業水利ストック情報データベースを活用し、整備の経歴、使用環境、地域特性等の情報を収集、整理する。	1式
2. 概略診断 機能診断評価(健全度評価)	概略診断調査の結果により、部位毎及び設備全体の健全度評価を行い、詳細診断調査の必要性を判断する。	1式
3. 機能保全対策の検討 性能低下予測	設備を構成する装置・部位毎に対策が必要となる時期や方法を比較検討するとともに、設備全体としての対策実施の要否、その時期を明らかにすることを目的として実施する。劣化特性や劣化予測の把握の可否を十分に踏まえて将来予測(余寿命予測)を行う。	1式
4. 機能保全対策の検討	機能診断評価結果を踏まえ、当面必要となる機能保全対策を検討する。劣化傾向等を予測し、将来的な劣化対策を検討する	1式
5. 対策実施シナリオの作成	今後必要となる対策の時期、内容等を予測して、機能保全コストを算出するために対策範囲・工法とその実施時期の組合せを検討する。	1式
6. 機能保全コストの算定	各種診断結果による機能保全コストとして、①当面の整備に必要な費用、②今後の更新等に必要な費用(想定)、③定期点検に必要な費用を合算し、算定する。	1式
7. 機能保全計画の策定	施設機能の維持、対策実施の合理性、設備重要度との適合性、維持管理の容易さ等を総合的に勘案し、機能保全計画を策定する。	1式
8. 農業水利ストック情報データの作成	農業水利ストック情報データベース資料を作成する。	1式
9. 点検とりまとめ	各作業項目の成果物の点検、とりまとめ及び報告書の作成を行う。	1式

